

「お母ちゃんの手と私のて」

藤田 千加美（愛媛県西条市・五十六歳）

「ドンドンパンパンドンパン、ドンドンパンパンドンパンパン、
ドドパンパ、ドドパンパ、ドンパンパン」

八月、地元の盆踊り大会で小学校の校庭に鳴り響くドンパン節。
お母さんが生きていれば踊っていたであろう、盆踊り大会。今年は
どんぱんクラブの仲間達が、お母さんの写真を持参して、一緒に踊
ってくれましたよ。

十三年前、お母さんは夫と仕事と大切な柱を失ってしまいました
ね。お父さんと二人三脚で食料品店を切り盛りしていましたね。お
父さんは仕入れ上手、お母さんは接客上手、お互いに無くてはなら
ない存在の様でした。どちらが欠けても成り立たない。有難い事に
存続を望む声もあったのですが、店を畳む事を決断しましたね。

それからのお母さんは、家にこもり気味になり私はとても心配で
した。それを感じてくれていたのは、ご近所さんも同じでした。お母
さんを外へ出さねばと、立ち上げてくれ誕生したのが、今のどんぱ
んクラブでした。幸いにも近所には日本舞踊の先生がいて、お母さ
んは自宅の倉庫を開放し、毎週毎週練習し次第に仲間も増えてき

ましたね。時には施設の方々の慰問に行ったり、他の地区の盆踊り大会に呼ばれたりと活動の幅も広がっていききましたね。お揃いのオレンジ色の法被を作ったり、社会福祉協議会の取材を受けたり。生前、その時撮影した写真を遺影にしてと言っていたので、約束は果たしましたよ。お揃いの法被も、そちらでも踊れる様に棺の中に入れておきましたよ。

今も公民館で、どんぱんクラブは活動しています。素敵なお仲間に出会えて、お母さんは幸せでしたね。踊りは指先の動きがとても大切で、先生に褒めてもらえたと、満面の笑みで話してくれましたね。実家でも、一度だけ一緒にドンパン節を踊った時の思い出が忘れられません。その時に、お互いの手が良く似ている事に気付きましたね。

今春、咲き誇っていた桜が散り始めた頃、お母さんは旅立っていましたね。大空に向かってお母さんとよく似ている手を伸ばし、千の風になって吹き渡っているお母さんを感じたい。いついつまでも大好きです。お母さん。